

# 新しい年を迎えました 安心の島根をつくる・急がれる具体的な災害対策



発行者 島根県議会議員  
はくいし 恵子  
2024年2月28日発行  
拡大版 VOL.36

**(はくいし) 事務所**

〒690-0882  
松江市大輪町414-12  
TEL・FAX  
**0852-23-0880**

HPアドレス  
<http://www.k-hakuishi.sakura.ne.jp/office/>

※是非、お立寄りください。



## 島根県議会議員 はくいし恵子

《プロフィール》  
●1949年松江市北堀町生まれ。北堀小学校(現・城北)、松江第一中学校、松江北高校、県立静岡女子大学(現・静岡県立大学)を卒業。●1975年島根県職員となる。福祉事務所、健康福祉センターなどにケースワーカーとして勤務。約20年間福祉行政に携わる。●2006年10月島根県を退職し、翌年4月県議会議員選挙(松江選挙区)に初当選。(現在5期目) ●女性問題を考える市民活動として、性暴力被害者ワンストップ支援センター「さひめ」支援員、精神障がい者通所施設「アクティブきたほり」第三者委員、社会福祉法人島根東光学園理事を務める。

今年の元旦は穏やかで良い年になりそうだな、と思っていたら、夕方外で防災無線が「津波注意報が出ました」と言っているではありませんか！

松江市の平野部、海も遠い我が家近くに津波が？と驚き、テレビを見ると石川県輪島市、珠洲市付近で地震があったと報じています。

安来に住む娘から「結構揺れたけど大丈夫？」と連絡が届き、我が家は揺れなかったけれど安来が揺れるぐらいだから、相当大きな地震だろうと思いました。

あとで聞くと松江市でも揺れたところがあちこちあったようです。その後の惨状は言うまでもなく、道路が寸断されて救援物資が届けられない、ビルも倒壊し、倒れた家の下敷きになっている人がいる、土砂災害で一家全員が犠牲になったなど次々と分かってきました。

しかし、政府の動きはあまりにも遅いと感じたのは私だけでしょうか。道路が寸断されているなら、ヘリで救援物資を、支援隊員をもつと動員を、行くと邪魔になる、と首相はずいぶん遅く現地入りしたが、もっと早く入るべきと、イライラしながらニュースを見ていました。

今に至るまで被害の全容はつかめていないようで、壊れかけた自宅が避難している人には支援物資が届かないのでは、という話も聞きます。何度も地震・水害の被害に見舞われている日本で、素早く支援に入る

ルール作りや初動体制づくりのマニュアルがないのか疑問に思います。

避難所の在り方も問われています。トイレがない、足りない、床に直に寝るのインフルエンザやコロナが心配されるなど、13年前にあればと言われてきたことではないか、と今更ながら思います。

我が家も古い木造家屋ですから、このような地震が来たらひとたまりもありません。一か所でも耐震化してそこに逃げ込むようにと言われますが、今回の様子ではそんな時間はなかったのではないのでしょうか。

自分事として今一度災害対策を見直すこと、県としても避難計画や避難所の在り方を見直すことが必要だと思えます。

ひとつだけ13年前の教訓が生きたと思うのは、発災後、間を置かず内閣府男女共同参画室から「災害対応における男女共同参画の視点からの取組について」という文書が発出され、避難所運営や環境整備に女性の視点を入れるよう要請され、避難所エックシートの活用を促されたことです。

阪神淡路大震災時、女性が運営に参加できず、着替える場所や授乳場所に困り、暗い場所のトイレでは性暴力が起きたという教訓を東日本大震災時に生かされなかった」と言われています。今回は少なくとも内閣府の文書がいち早く出たことは注意喚起の上で良かったと思えます。

島根半島にある宍道断層、鳥取沖断層の存在が分かっている私たちの地域でも、今回の能登半島地震を教訓に備えを強固にしていまなければならないと思います。

年頭に当たって、能登半島地震のことばかりになりましたが、今年も精一杯頑張りますのでどうぞよろしくお願いたします。



### 会派調査

## 広島県の先進事例に学ぶ 子どもたちに多様で主体的な学びを

8月28日〜29日、広島県の「個別最適な学び」「SCHOOLES」の取組、広島市の「夜間中学」、NPO法人FOOT&WORKの「ひきこもり支援」を調査しました。その一部を報告します。

広島県の「個別最適な学び」は、文科省から示された新たな学びの方向性に基づき全国に先駆けて「アクティブな学び」を取り入れ、子ども達の主体的な学びの実現に向けて、実証校で2年間研究に取り組みました。

今は手を挙げた学校で実施しているのですが、子どもたちが教科書で勉強するのが、プリント学習をするのか、タブレット



トでするのかなど自分で学ぶ方法を決めて取組み、先生はそれぞれの取組を見ながら支援をする、といった方法でした。毎時間ではなく、1割程度をこの方法でやっているそうです。目的は「指示待ちを作らない」こと。

「自分の進度で学べるので取り残されてしまう子が少なくなる」「まず目標を立て、最後の振り返りなど、すべて自分でするので学力の伸びも見られる」「特別支援の子も一緒に学ぶ」「教師の負担としては、準備に時間はかかるが教師同士協力し合って進めている」「体や手が空いているので一斉授業より全員に目が届く」という先生の声が印象に残りました。

「個別最適な学び」「SCHOOLES」は、全国初の民間から公立中学校長になり、その後教育長になられた平川教育長(女性)の主導です。

個別最適な学びだけでなく、高校入試改革やビジネス探求プログラム導入、イエナプラン教育、国際バカロレア認定校の開校など大胆な教育改革に取り組みられています。

平川教育長の姿勢は「本庁の指導主事は、文書作成は事務職に任せてもいいし、完璧でなくてもいい。それよりもっと学校に行って子どもに関わってほしい」という言葉に全てが表れていると思います。

そのあとに行つた県の教育センターで取組まれているSCHOOLESでも不登校支援に「個別最適な学び」を導入し、子どもたちがワクワクする環境の中で得意なこと、好きなことに思い切り挑戦して学ぶ楽しさを取り戻すことができる場所となっています。2時間も電車に乗って通ってくる子もあるそうです。それほど魅力的な場所なんだな、と納得させられるところです。

社会も子ども達も複雑化する現代では、もう従来の一斉授業では十分な教育ができないと思つたので広島県の取組はとても参考になりました。

# はくいし恵子の県議会報告



## 11月県議会

一般質問から抜粋  
(11/27～12/21)

## 9月県議会

代表質問から抜粋  
(9/7～10/5)

23年9月議会が9月7日から10月5日まで開催されました。私は2月に続き、会派を代表しての質問に立ち、知事の掲げる「人口減少に打ち勝ち、持続可能な島根」を創る為に必要な人づくりに論点を絞って質問をしました。

### 人口減少に打ち勝ち島根を

質問：「人口減少に打ち勝ち」ことへの知事の覚悟について

【知事】県民の皆さんの額に汗する努力が中々うまくいかない。それを改善するための制度全体の仕組みを変えてもらうことについて、知事として一生懸命頑張っていく。

質問：新しいキーフレーズについて

【健康福祉部長】忙しいと忘れがちな大切な意味をこのキーフレーズで思い出すきっかけにしたい。研修等で啓発していく。

11月議会が11月27日から12月21日まで開催されました。私は一般質問に立ち、10月から始まったパートナーシップ宣誓制度や男児への性暴力についてなど4点の質問をしました。

質問：パートナーシップ宣誓制度について

【環境生活部長】今までも講演会や研修会、啓発資料の配布を行ってきた。これからパートナーシップ宣誓制度導入に合わせ、各種団体と連携して誤解や偏見の解消に努め県民の理解が進むよう取り組んでいく。

(1)現在実施中の取組に加えて県職員の仕事の魅力について

【健康福祉部長】忙しいと忘れがちな大切な意味をこのキーフレーズで思い出すきっかけにしたい。研修等で啓発していく。



夫が必要だが考えを伺う。

【人事委員会事務局長】島根県という大きなフィールドを舞台とし、県民生活を様々な面から支え、自らの視野を広げ、県の発展に貢献できる等の経験は人生を豊かにするという魅力を丁寧に発信していく。

取組について  
(1)非正規雇用など将来に希望が抱けないような状況を改善するために何ができるか考えを伺う。

【商工労働部長】正社員転換の助成やキャリアアップセミナーの開催、相談窓口や高等技術校での職業訓練等支援している。相談窓口の更なる周知、きめ細かな就職支援を関係機関と連携して進めていく。

(2)国が打ち出した異次元の少子化対策について知事の所見を伺う。

【知事】厚生労働省の所管の範囲でしか作られていない。文部科学省の所管事項は入っていないので、そこを直してもらわないといけない。県としては様々な財源を工夫し、関

(2)若年層や経験を積んだ職員の退職対策はどうしているか伺う。

【総務部長】すでに様々な取組を行っているが、今

### 性暴力・男性被害者への対応 —カウんセラーの育成に努める—

質問：男児への性暴力について

【教育長】学校の危機管理の手引きに、相談があれば福祉部局や児童相談所、警察、性暴力ワンストップ支援センターと連携して対応するよう記載。2次被害が生じないようにス

係者と連携して島根の実情を踏まえた支援策の充

### 子どもたちがすこやかに育ち 定着していく取組を

質問：子どもの健やかな育ちの保障について

【知事】子どもが病気の時

【教育長】各市町村で様々な居場所がある。県では不登校の理解と支援講座、居場所づくりなどの実践講座等を行っている。民

等々の支援をしていく。

(3)男性被害者にも対応できるワンストップ支援センターの整備は如何。

【健康福祉部長】男性被害者に対応できる相談員や診療体制が必要。多くの課題を踏まえ、すでに支援を行っている民間団体や医療機関、弁護士、警察等関係機関と相談しながら、支援体制整備を検討する。

(4)男性被害者に対する相談スキルを身に付ける研修の実施は。また、男性の相談員やカウんセラーを育成する考えは。

【健康福祉部長】様々な相談窓口の職員に対し、専門家や先進的な団体の職員を招いて研修を行うことを検討する。また各種

間の居場所については感謝しているが、位置づけや財政支援は各市町村で考えるものと思う。県は市町村と連携し学習機会の確保や社会的自立を支援する。

実際に取組んでいかないといけないと思っっている。

【政策企画局長】教育機関、産業界、市町村、島根労働局等としっかり連携を図ることを意識しながら、島根を創るひとつづくりの取組を着実に進めて行く。

(2)誘致企業、県内企業に県が策定した「人づくりプラン」をどう説明し、協力を求めているのか伺う。

【政策企画局長】県の各部署が開催する会議などで説明しており、しまね産学官人材育成コンソーシアム(共同事業体)にも経済団体や企業に参画していただいている。引き続き連携して人材育成と県内定着に取組む。

相談機関の男性職員にも研修を受けてもらい、男性の相談員・カウんセラーの育成に努める。

(5)被害者が子どもの場合は児童相談所との連携が必要だが児相の課題は。

【健康福祉部長】子どもへの性暴力の相談は多くはなく、支援スキルの蓄積が十分ではない。職員に研修を受講させる、事例検討を行う等スキルの向上を図り、子どもの性暴力被害者への対応ができるよう努める。

(6)男性被害者の診察ができる医療体制の構築について伺う。

【健康福祉部長】男性被害者の心情に配慮したケアができる医療機関を新たに確保すること、相談機

やがて島根を支える人材となるまで息長い育成と支援を考えてほしいが所見を伺う。

【健康福祉部長】中山間地域では拠点病院に幅広い役割が期待されている。県内にある先行事例を情報提供し、市町村、地域での体制整備が進むよう促すとともに、保健所も積極的に関わり、伴走型の支援を行う。

# 女性議員ネットワーク総会・研修会

## 女性議員同志の繋がりが力に

1月15日、東京で立憲民主党の女性議員ネットワーク総会・研修会がありました。

8月に続いて今回も会場参加とオンライン参加のハイブリットでしたが、4年ぶりに会場参加して改めてリアルで顔を合わせる必要を感じていましたので、今回も会場参加を選びました。

私が役員をしていた過去2年間はコロナ禍の中でしたので、役員さえも顔合わせることができず、参加者も他県の議員との名刺交換や懇親会などで親しくなる機会がなく、総会・研修会の目的の一つを奪われていました。

所属議会に仲間の女性が少ないので、このようないざい話をする機会、同じ思いの女性がいること、

## やったふりの政治や行政を変える

とに勇気もらえると思います。私自身も全国に女性議員の友達がいいます。中には一緒に海外視察に行ったり、島根県に来てもらって一緒に県内視察をしたりもしました。また互いに選挙応援に

行ったこともあり、昨年の県議選には宮城県議会のゆさみゆきさんに来ていただきました。私自身もこのようにながりに力をもらい、元気をもらいこまごま来ることができたと思っています。

当日は、自治体議員ネットワークと合同開催で、法政大学の山口二郎先生から「自治体議員が目指すべき未来」と題し、先生自身が「今のような政治状況では死んでも死にきれない」と仰るように、私たちが勇気づけるお話

無視したものであることに怒りを感じていました。「売春防止法」は貧しいがゆえに性を売る仕事に就かざるを得なかったり、親を助けるために身を投げ出した女性たちを救うために、当時のリーダー的な女性たちの力で策定されたことは評価しています。

しかし、売春あつせん業者だけでなく、町に立つて客を勧誘する女性も処罰の対象であり、婦人相談所は保護された女性を再び「転落」しないよう、「未然防止」のために保護、教育する施設とされ、必ずしも女性の人権を守るためのものではないと思っていました。

権力は長期化すると腐敗する、政策は陳腐化する、立憲民主党の課題としては、自民党への逆風の中で、江東区長選挙、武蔵野市長選挙（直近では八王子市長選挙も）に負けたことを厳しく総括しなければならぬ、と。

そのために政治戦略をどう立てるかを考えることが大切だが、とりわけ地方では「官から民へ」といわれ、公務員が減らされ、公的な仕事が民間

やっとならなくて新しく成立した「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」。女性の権利保障、権利擁護、自己決定の尊重を目的とし、基本理念には、当事者の意思の尊重と心身の回復、そのために行政と他機関・民間との協働による支援をうたっています。

県には「基本計画」の

## すべての人に寄り添える社会へ

二つ目の講義は「女性支援新法のポイントと自治体の役割」と題し、その道のプロであるお茶の水女子大名誉教授戒能民江先生からお話を伺いま

私自身も「売春防止法」の下での女性相談センターで働き、その法律が現状に合わないことや女性の人権や社会の責任を

## レインボーパレード



11月25日、松江市で初のレインボーパレードが開催されました。ところで皆さんは「レインボーパレード」って何かご存じですか？最近やっと認識されて

## 「LGBTQ」にもっと理解を

きた「LGBTQ」の方々、「私はここにいます！」とアピールするパレードです。性は男と女に二分されるわ

けではなく、実に多様な「性」があることを私自身もここ10数年の間に教えて頂き、当事者の方にもお会いしてきました。

この世にはレインボーのように様々な色がある、それを自然のこととして一緒に生きて行こうよ、と今心

者」として参加しました。全国からも当事者、支援者がたくさん集まり、楽器を鳴らし、レインボーフラッグを振り、生き生きとしたパレードになりました。

企画し実行されたドリーさんに大きな拍手を送りたいと思います。沿道からもたくさん手を振って頂きました。理解している人もそうでない人もおられたと思いますが、このような取組を通じ、もっともっと理解が深まるよう願っています。

## 恵子の思い

策定が義務付けられ、いよいよスタートしますが、山口先生が言われた「やっとならなくて」状況を確認していきたいと思えます。

そして、この法律は女性対象ですが、今、困難を抱えているのは男女を問わない若い人々ではないかと思っています。

2年間も続くウクライナ戦争に加え、パレスチナ紛争も勃発し、きな臭さが増す世界情勢です。日本では、政治と金の問題が次々明らかになっていくのでしよう。本来なら政権交代と行きたいところですが、野党も四分五裂で国民の支援を集められそうにありません。

でも4月に予定される島根1区の補欠選挙では意地を見せたいところですが、また私たちの生活も相次ぐ値上げで厳しさを増しています。

私は、世界情勢は厳しさを増し、国内でも政治と金の問題や企業の不祥事、止まらない物価高に新しい年への希望を抱きにくい思いがしています。

そんな中でどうやって県民の生活を守っていくのか、どうやって島根で生まれ育つ子どもたちが豊かな心を育むことができるよう取り組んでいくのか、県政には引き続きこの大きな課題に取り組む覚悟を問われています。

今年も会派の中はもちろん、執行部とも力を合わせ、島根県のために一生懸命がんばります。



中山間・離島振興特別委員会県外調査

地方が衰退すれば東京も減ぶ

10月18日〜20日は、中山間・離島振興特別委員会県外調査で、鳥取県日南町、岡山県津山市、滋賀県高島市、兵庫県朝来市と布土に伺いました。

日南町では、コンパクトビレッジ構想、道の駅「にちなみ日野川の郷」を見させて頂きました。

20年前から人口減少を念頭に、住まいを中心部に集める再編を始められ、町の真ん中の「道の駅」を商業施設として中心に置き、1km圏内に病院、保



健康センター等の福祉ゾーン、図書館、役場、文化センター等の行政ゾーンを集約、各ゾーンを町営バスとEV循環バスで回る、という効率的、持続的な街づくりを進められています。

道の駅では地場産業振興のため6次産業化やレストランの経営、隣接地に高齢者住宅や定住促進住宅を配置し、多世代交流の機会も作られています。

また地域通貨も発行、域内でお金が回る仕組み作りにも挑戦されています。

森林を守り村の持続可能性を思うところの取り組みだと思いました。

岡山県津山市あば村では、合併を機に人口が減少、危機感が高まって「新しい村のかたち検討委員会」が設置され、その後「あば村運営協議会」を設

立し、ガソリンスタンド経営や地元産の加工食品づくり、民間事業者によるグランピング施設が整備されるなど交流人口の拡大や移住定住促進に力を入れておられました。

与布土では自治協議会を中心に、地域食堂や農地を地域で管理する組織「ふたの恵」の立ち上げ、自主財源確保や災害時の電源確保を目的に太陽光発電にも力を入れておられました。



山間地域では人口減少や高齢化に悩み、何とか暮らして地域を守ろうと創意工夫されている住民の姿に出会いました。全国の中山間地域がこんな厳しい状況になったのは住民のせいではなく、やはり政治の、政策の失敗だと思われてなりません。

今は東京一極集中ですが、東京の労働力や食料電力を賄っている地方が衰退すればやがて東京も衰退します。そしてやがて日本全体が衰退していくのではないのでしょうか。

今のうちに何とかしなければ、私たちの子どもや孫たちの時代には大変なことになるのではないかと恐れます。では島根県で何ができるのか、真剣に考えたいと思います。



女性の視点も社会の基準に

1月23日、今年最初の県政報告会を大雪注意報が出る中で開催しました。

今回はゲストスピーカーに島大の行政学が専門の毎熊先生をお招きし、先生のもとに集まるポリレンジャー（政治を考える学生グループ）を核に、若者

の政治参加についてお話しただきました。ポリレンジャーの活動として、子ども達の模擬投票を実施されていますが、親と一緒に投票所に行った経



験が投票のハードルを下げるのでは、とお話しいただきました。私からは「議員になるまでの軌跡」と題してお話しました。幼いころ母

防災地域特別委員会調査

11月6日から8日にかけて、福井県永平寺町の「まちづくり株式会社ZENコネクト」の自動運転について、石川県金沢市の「小松空港」の

と里山空港の取組、富山県朝日町の「ノッカルあさひまち」、富山県の「地域生活交通確保対策」を調査しま

地域交通を守るために

11月6日から8日にかけて、福井県永平寺町の「まちづくり株式会社ZENコネクト」の自動運転について、石川県金沢市の「小松空港」の



改造した7人乗りの車を使い、全くの無人で運行する取組です。調査時は残念ながら事故が起きた（自転車とぶつかった）ため、運行中止でしたが永

今年元旦に起きた能登半島地震。東日本大震災から13年後のまたも大地震です。しかも日本海側では大きな地震は起こらないだろう、と何の根拠もなく言われていたことを大きく覆す地震でした。

大きな揺れが長く続いたことで、高齢化の進む現場の木造家屋はひとたまりもなく倒壊し、道も亀裂がはいったり隆起したり、海沿いの現場に陸路で入る救助を阻みました。

能登半島地震災害被災者支援募金に協力を

幸い志賀原発の事故は免れましたが、最初特に異常はない、と発表されたのに次々と冷却ポンプが一時停止したこと、変圧器の大量の油漏れ、モニタリングポストの電源が失われたこと、使用済み核燃料プールの水が大量にこぼれたこと



が明らかになりました。大きな事故にはならなかったものの、一つ間違えば福島原発事故の二の舞だったのでは、と背筋が寒くなりました。島根原発は今年夏の再稼働を予定していますが、地震で家が倒壊した場合、段階的避難などできないうえに避難計画の見直しを含め、夏の再稼働はあり得ないと思っておりますが、みなさんはどう思われますか。

また政府の動きも遅く、またに全容が見えない、支援物資が行きわたらない、など気になることがばかりです。何とか生活が

日本ジェンダーギャップ指数は146か国中125位と低位

にあり、特に政治分野は135位で世界最低です。実は世界でもまだまだ女性の問題は未解決で、例えば車の衝突実験や新薬の治験は男性モデル

で女性のデータは無いからあっても無視されているという書籍が知りました。女性のリーダーが増え、このような女性の課題が

一つ一つ解決されていくようになってほしいと思いますし、私自身も女性議員としてこれからもしっかりと取組んでいきたいと思